

# 井の頭池の新漁法：オダアミと夜のバス稚魚捕獲

井の頭かんさつ会 田中利秋、大原正子

## はじめに

井の頭池は東京の市街地にある井の頭恩賜公園の池で、オオクチバスとブルーギルが大増殖して在来生物が激減しています。井の頭かんさつ会は公園の許可を得て、調査と実験と啓発を兼ねた「外来魚捕獲実験」を2007年8月から継続しています。その目的のひとつが、市民レベルで無理なく実施でき、かつ効果的な外来魚駆除手法の開発です。今回は、我々が考案した手法のうち、他の場所でも使用可能と思われる二つを報告します。

## オダアミ

右のような、塩ビパイプの枠に園芸用防風ネットで作った四角い網を取り付け、網底の四隅に錘を付けたものです。枠は内部の空気のため浮きますが、錘のほうが重いので、オダアミは水底から立ち上がる形になります。これをギルがいる場所に沈め、しばらくして上げると、エサなしでも何匹も獲れます。多いときは稚魚が200匹以上入っていたこともあります。稚魚が多数群れている場合は、沈めてすぐ上げてたくさん入ります。物に寄り付く習性、群れる習性があるためだと考えています。



2009年度には約10基のオダアミを池に常設し、活動日以外でも時間を見つけて上げて、計78,345匹のギルを捕獲しました。これはかんさつ会がこの年度に捕獲した全ギルの74%に相当します。その効果か、2010年度にはさらに多くの数を常設して効率的に運用したにもかかわらず、オダアミによるギル捕獲数は28,789匹に留まっています。なお、オダアミは群れている時期のバス稚魚にも有効です。

写真のオダアミは枠が45cm角、深さが40cmです。枠はこれまでに90cm角、70cm角、60cm角も試しましたが、45cm角で十分な効果が得られ、取り扱いも楽です。小学一年生から80歳のおばあさんまで使いこなせることを確認しています。岸辺の水深が0.7~1.5m程度なら、網の深さは30~40cmでよいですが、もっと浅いときは網の深さを減らす必要があるし、深い場合は網を深くするか外部の浮きや錘を用いて水中でのオダアミの位置を調整する必要があるかもしれません。

エサ（練り餌）を入れるとギル稚魚を呼び集める効果が高くなります。ただし、カメやコイがたくさんいるところでは逆効果になることがあります。

小学生向けのイベントや女子中学の課外授業にも使用し、短時間でたくさんのギルを捕獲してもらいました。かごワナよりたくさん獲れるし、釣りより簡単にできるので、環境教育にも有効だと思います。

## 夜のバス稚魚捕獲

群れている段階のオオクチバス仔稚魚の大量捕獲は、卵の除去とともに、生息数の低減化のために重要です。仔魚は比較的簡単に網で掬えますが、全長20mmを超える稚魚は警戒心が強くなり逃げ足も速くなるので、大量に捕獲するのが困難になります。しかしながら、その稚魚が夜間は岸辺に群れてボートと浮いていることが多いのを発見しました。警戒心が極めて弱くすぐには逃げ去らないので、岸からタモ網で掬い放題に掬えます。全長40mmほどになると警戒心が強まりタモ網では掬えなくなりますが、群れを大きな網で囲うことにより捕獲可能です。昨年6月中、夜8時ごろから巡回して、見つけた群れの捕獲を試みたところ、全長20~50mm余りのバス稚魚を計6,418匹捕獲することができました。